

国土地理院承認 平14総複 第149号



南部の東区内の★が上道北方地区を示す。
北部鏡野町内の★は真経地区を示す。
上の岡山県地図は、「白地図 KenMap」によって作成したものを編集した。



写真1：東端の石原家



写真2：新家の石原家



写真3：オドクウ様に曲げ飾りを祀る



写真4：三村家



写真5：田村家



写真6：屋敷の宇佐美家



写真7：鏡野町真経の地神



写真8：上道北方の地神塔



写真9：田村家の地主神



写真10：地主神に祀られる札



写真 11：藤本家の地主神



写真 12：三村家の地主神



写真 13：若年大神守護の札



写真 14：風化した札らしきもの



写真 15：真経ゲートボール場の地主神



写真 16：木野山様のお堂



写真 17：狼の描かれた札



写真 18：上道北方の牛神様



写真 19：金神の厨子



写真 20：金神様の息抜き（1）



写真 21：金神様の息抜き（2）



写真 22：オシメ様



写真 23：屋内のオシメ様



写真 24：吉藤荒神



写真 25：利岡荒神



写真 26：中土居の愛宕様

注

- (1) 『岡山県史』第15巻 民俗Ⅰ「第六章 民間信仰と修験道(三浦1983:488-493)」によると屋敷神として祀られている神は、地主神を始め、狼様、弁天様、御崎(ミサキ)、ミコ神、金神、摩利支天といった神が祀られている。
- (2) この方位は正確な南ではなく、南東方向にずれている。しかし、家の方位について何うと「家は南向き」といわれる。そのため、ここでは民俗方位として、家を南向きとしていると述べた。
- (3) 地面に筒を挿し、「息抜き」と称する事は、井戸や便所を埋める際の習俗に見られる。特に井戸を埋める際には、神職さんに来てもらって断りの祝詞をあげてもらおうという。
- (4) 三浦は「岡山県の荒神信仰」(三浦1989:78)においても、冒頭で『吉備温故秘録』巻之二十四を引用している。この史料において荒神は「涇祠の小宮」と述べられているが、人々が祭祀していた様子が観察されている。
- (5) 高見寛孝『荒神信仰と地神盲僧—柳田國男を超えて—』によって、山口県や九州の盲僧が琵琶を弾いてカマド祓いを行った事が述べられる。
- (6) 文中では、「岡山市中尾北方七十五匹の石原家」となっているが、現在は、北方地区と鉄地区のちょうど境目に位置し、家の裏側にオシメ様が祀られている。この屋号とみられる「七十五匹」については、地元ではこのような呼び方をしない事から、なぜこのように記載されているのか不明である。
- (7) 岡山県の備中荒神神楽では、荒神・氏神・ロックウ・コガミを神殿屋敷の祭壇へ神迎えを行う。また、土公神は、「各家のロックウ(土公神・かまど神)を迎える」(三浦1989:108)と述べられている。そのため必ずしも限定された土地に常駐しているとはいえない。したがって、本稿における土公神(三宝荒神)の示す常駐性の前提となるのは、「出雲に行かない」と定めた。

引用文献

飯島吉晴

1986『竈神と廁神 異界と此の世の境』: pp.97-100 人文書院

池田暁子

1998「第十章 民間信仰 第二節 屋敷神・屋内神」金光町史編纂委員会『金光町史』民俗編: pp.576-581
金光町

井上象英・神宮館編集部

2008『平成二十一年神宮宝暦』: p.4 東京神宮館

小嶋博巳

1998「第十章 民間信仰 第一節 小祠・講・共同祈願」金光町史編纂委員会『金光町史』民俗編: pp.547-566

岡山県立博物館

2009 平成20年度特別展『岡山の庶民信仰—くらしの中の神・仏—』: p.64

香北ふるさと伝承委員会

2000『香北ふるさとの伝承』: pp.60-61

北見俊夫

1963「第1章 村制習俗」和歌森太郎編『美作の民俗』: pp.126-149 株式会社吉川弘文館

郷田洋文

1955「竈神考」日本民俗学会編『日本民俗学』2(4): pp.21-36.

斎藤英喜

2007『陰陽道の神々』: p.177 株式会社思文閣出版

桜井徳太郎

1963「第11章 年中行事」和歌森太郎編『美作の民俗』: p.304 株式会社吉川弘文館

鈴木正崇

2001『神と仏の民俗』：p.143；175 株式会社吉川弘文館

高見寛孝

2006『荒神信仰と地神盲僧——柳田國男を超えて——』：p.158；192；295 有限会社岩田書院

竹内平吉郎

1998「第九章 年中行事」金光町史編纂委員会『金光町史』民俗編：p.518 金光町

正富博行

1980「第八章 民間信仰 七 地神」矢掛町史編纂委員会『矢掛町史』民俗編：p.261 矢掛町

「第十二章 年中行事」矢掛町史編纂委員会『矢掛町史』民俗編：p.465 矢掛町

鶴藤鹿忠

1980「第四章 住居」矢掛町史編纂委員会『矢掛町史』民俗編：pp.80-85 矢掛町

直江広治

1963「第4章 荒神信仰」和歌森太郎編『美作の民俗』：p.224 株式会社吉川弘文館

「第6章 屋内神」和歌森太郎編『美作の民俗』：pp.243-245 株式会社吉川弘文館

中山薫

1981「コンガラ考——備前における巫女の存在形態——」『日本民俗学』135：pp.39-40

備中町史編纂委員会

1970「第5章 衣・食・住」備中町史編纂委員会『備中町史』民俗編：p.193；227；291；293

本郷晃溥

1980「第五章 生業 一 農業」矢掛町史編纂委員会『矢掛町史』民俗編：p.120 矢掛町

三浦秀宥

1963「第10章 農耕儀礼」和歌森太郎編『美作の民俗』：pp.293-295 株式会社吉川弘文館

1983「第六章 民間信仰と修験道」岡山県史編纂委員会『岡山県史』第15巻 民俗Ⅰ：pp.495-496；530-539；550-558；585 岡山県

1989「美作の荒神信仰」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：pp.66-71（初出『岡山民俗資料』第五輯，1950年10月）株式会社名著出版

「第三節 岡山県の荒神信仰」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：pp.78-84（初出『日本民俗学』第二巻四号，1955年3月）株式会社名著出版

「第一章 民間信仰の身近な視点」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：pp.26-39（初出 岡山文庫73『岡山の民間信仰』1982年）株式会社名著出版

「第四節 岡山県の荒神籠りと荒神講」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：pp.95-96（初出『日本民俗学』第3巻2号，1955年11月）株式会社名著出版

「第五節 荒神神楽」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：p.108（初出『山岳宗教史研究叢書』十五巻「修験道の美術・文学」1985年5月）株式会社名著出版

「第二節 上原大夫と上原祈禱」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：p.450 株式会社名著出版

「第四節 備前の巫女」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：p.472 株式会社名著出版

「第六節 法印とシソ送り」『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』：pp.493-497 株式会社名著出版

参考文献

岡山県史編纂委員会

1983『岡山県史』第15巻 民俗Ⅰ 岡山県

金光町史編纂委員会

1998『金光町史』民俗編

高原豊明

- 2001『清明伝説と吉備の陰陽師』有限会社岩田書院
鶴藤鹿忠・島田・四宮・藤原・松岡
- 1973『中国の民間信仰』株式会社明玄書房
三浦秀宥
- 1989『荒神とミサキ——岡山県の民間信仰——』株式会社名著出版
備中町史編纂委員会
- 1970『備中町史』民俗編
矢掛町史編纂委員会
- 1980『矢掛町史』民俗編
和歌森太郎編
- 1963『美作の民俗』株式会社吉川弘文館